

H26(2014).8

地域と共にある学校づくり

# 信州型コミュニティスクール

## 取組事例編 1



学校と地域が持続的に連携していくための仕組みづくりとして、信州型コミュニティスクール（信州型CS）への取組が、モデル市町村を始め多くの学校で始まりました。「運営委員会」は、これまで各校が築き上げてきた既存の組織や会議を活用することもできますので、信州型CSといっても、各校により多様な取組が予想されます。

本年度は、こうした各校の取組を「取組事例編」で紹介させていただきますのでご活用下さい。

### 「願いを共有できるところから… 仕組づくりに向けてのはじめの一步」 ～松本市立高綱中学校～

#### 1 信州型コミュニティスクール導入にあたって

高綱中学校は、松本市西部に位置し、恵まれた自然環境に立地する、全校生徒数 300 人余の学校です。これまでも地域の方のボランティア活動が行われており、地域で学校を支えていく素地のある学校でした。校長先生は、「学校と地域の連携は大切で必要なこと」と考え、「これまでの関係をさらに発展させて組織化・継続化したい」との願いを持っていました。また、ボランティアの方も段々と高齢となり、学校支援の今後のあり方についての検討も必要な時期となってきていました。そこに、松本市から“市内全小中学校で『松本版信州型コミュニティスクール』導入”の方向が示されたことも重なり、信州型CS導入に向けての一步を踏み出しました。

#### 2 信州型コミュニティスクールの仕組みを作るために

##### (1) 要望アンケートと学習会の実施

信州型CSを進めるにあたっては、まず、先生方の理解を得て進めていけるよう、「地域による支援への要望」についてアンケートを行うことにしました。また、多忙な日々を過ごしている先生方にとって、「これ以上の負担」ではなく「ゆとりが持てるためのもの」であるということ、職員会等で学習会を持ち確認してきました。

##### (2) 運営委員会（『高綱中学校区地域応援団チーム若鷹』）立ち上げに向けての準備会

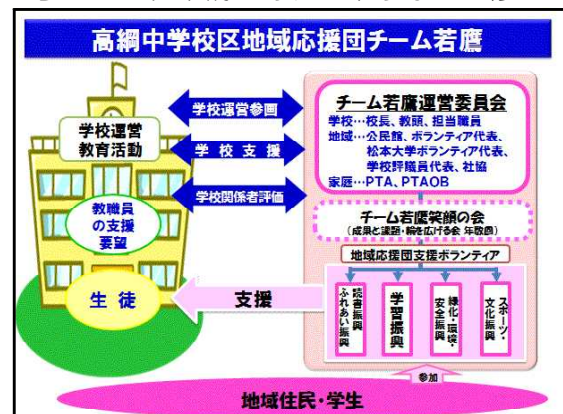


第2回準備会の様子

昨年度の11月と2月に運営委員会を立ち上げるための準備会が開かれました。第1回の準備会では、支援方法や組織づくりについての協議が行われ、平成20年度から行われている松本市の学校サポート（公民館を中心とした学校応援団）事業及び学校評議員会を活用した組織づくりや連携の方向が示されました。第2回の準備会では、組織づくりと今後の推進についての意見交換が行われました。「とにかく立ち上げて、不備があればやりながら修正しましょう。（地域指導者）」「公民館としても協力します。待っていても進まない。進めましょう。（公民館）」「高綱の子をこんな子にしたいという願いを持つことが大切。（元PTA会長）」「地域でどのような子どもに育てたいか。ぜひ中学校区で進めたい。（教頭先生）」「子ども達も地域の方もみんなが元気になるればいい。無理なく知恵を出し合って進めたい。とにかく地域の方と願いを共有して始めたい。（校長先生）」等、それぞれの立場からそれぞれの思いが語られ、今後の方向が確認されました。

#### 3 一步踏み出した高綱中学校

先生方からの要望アンケートを受け、4つの支援振興事業が組織されました。学習振興では数学が苦手な生徒を対象とした松本大学学生ボランティアによる『放課後学習会』の活動が試行されま





放課後学習会の様子

した。生徒達は「気楽に質問できるしよく分かる。」、ボランティアの学生は「やりがいがありとにかく楽しい。」と、お互いに得るものを感じています。また、担当の先生は「はじめは大変だったが、授業では見られない生徒の姿が見られ、学習会のよさを実感した。」とその手応えを感じています。信州型コミュニティスクールの仕組みが、目的ではなく手段として機能し、その効果も表れ始めています。  
(中信教育事務所生涯学習課 指導主事 大日野 剛)

## 「地域の良さを生かした教育活動が続くように」 ～飯田市立千代小学校～

### 1 地域の良さを生かした教育活動が続くように

飯田市にある千代小学校は、天竜川の東に位置する、全校児童 50 名ほどの学校です。学校に対して、もともと地域の皆さんが大変協力的で、公民館サークルの方による読み聞かせを始め、お米作りや登下校の見守り等、様々な組織・団体が関わって下さっていました。そんな千代小学校ですが、次のような課題がありました。

- 教職員は異動があるので、ボランティアの方とのつながりが長続きしにくい。
- 講師の発掘には、地域の方によるつなぎ役がほしい。
- 現在ある組織・団体の高齢化。地域の世代間交流による引継体制が必要。

このようなことから、「教職員が替わっても地域の良さを生かした教育ができるように」するため、また「地域を愛する子ども、たくさんの人と関わってたくましく生きていく子どもに育てて欲しい」という願いを持ち、「千代小地域応援団」づくりがスタートしました。

#### 【千代小地域応援団設立へ向けて】

- ①教職員説明会、意見交換会
- ②学校評議員説明会、意見交換会
- ③学習会～教職員、学校評議員
- ④準備会～学校評議員と打合せ  
組織、年間計画、依頼手順等
- ⑤千代地区・市教委へ報告・協力依頼
- ⑥PTA総会で報告、協力依頼



### 2 既存の組織を生かして

仕組みづくりは、関係者への共通理解を丁寧に図りながら進めました。その中で、これまで支援してきたくれた組織をベースに6つの応援団をつくり、その代表者をコーディネーターとして、学校評議員になってもらいました。そのために、市教委と相談の上、学校評議員を4名から7名に変更しています。そして、名称を「応援団本部」とし、運営委員会の3つの機能を果たしてもらっています。また、公民館には全般に支援をいただき、事務局は学校と公民館主事が担うようになりました。(左図参照)

### 3 初年度(H25)に行われた活動から

前年度の職員会において「千代小の児童に足りない体力の増強を図るために、サーキットコースを作ってはどうか」という案が出されました。しかし、正式な器具を業者に依頼すると相当な資金が必要になることがわかり、実現不可能という結論になってしまいました。しかし、これを応援団本部で共有したところ、「何とかかなりそうだ」という声があがり、環境整備応援団を中心にサーキットコース作りが始まりました。3回の工事を経て、昨年10月から



児童たちが元気いっぱいに使っています。

応援団本部が、学校からの情報発信の場として、地域との課題共有の場として活用されています。

この活動は、先生方にも地域との連携の良さの一端を感じていただく機会となりました。次は「民俗資料館ができないか」「外国語活動で支援ができないか」「ピアノ伴奏をお願いできないか」など、アイデアがさらに広がっています。

(南信教育事務所飯田事務所 指導主事 北澤 孝郎)



## 「ふるさと学習」から地域のハブ拠点へ ～飯山市立常盤小学校～

常盤小学校では、「ふるさと学習」の実践から学校内で地域連携に対する意識が高まったのをきっかけに、地域との連携を「ふるさと学習指導計画」や「学校ランドデザイン」に位置づけて学校全体で共有し、信州型CSを立ち上げました。

また、学校支援を進めるだけでなく、学校が地域での学びや活動の情報を発信するハブ拠点となるよう、地域と共にある学校づくりを進めています。



常盤地域に出て、人・もの・ことと出会う  
「ふるさと学習」

### 1 「ふるさと学習」からのボトムアップ

昨年度、常盤小学校の5学年では、総合的な学習の時間「『昭和五十八年洪水』に学ぶ」において、150名以上の常盤地区の方々にインタビューを行いました。子どもたちは、地域の方々とふれ合う中で、当時の洪水被害の様子や洪水後も地域に住み続ける方々の思いを肌で感じ、学習を深めました。

この実践をきっかけに、校内の先生方の中で、「ふるさと学習」の良さと必要性が広く確認されました。各学年では、「ふるさと学習」についての指導計画がまとめられ、学習内容と実施時期、地域のどのような方々や団体にかかわってもらえばよいかなどをはっきりさせました。

そして、こうした地域の宝（人材、素材）を生かした教育

活動の充実のため、学校・家庭・地域の連携をランドデザインに位置づけ、信州型CSを進めることになりました。

### 2 既存の会議の活用

常盤地区には「ときわっ子を語る会」という、さまざまな関係団体の方々に参加いただいている会がありました。そこで、この会の皆さんに信州型CSの趣旨や学校の「ふるさと学習」などに対する願いを説明し理解をいただいた上で、この会を「運営委員会」の機能をもった「信州型CSときわっ子を語る会」にし、「ふるさと学習」をはじめ、地域との連携をさらに充実させていくことにしました。また、この会へは将来的にコーディネーター役を担っていただきたいと考えている複数の方にもメンバーに加わっていただくようお願いしました。



### 3 学校のハブ拠点化

常盤小学校では、「運営委員会」を学校からの情報を共有する場とするだけでなく、地域の情報を共有する場としても大切にしています。「信州型CSときわっ子を語る会」から発信される地域の行事や様々な取組の情報も学校支援につながるものがあります。学校教育活動と融合できる部分はないか、年間行事予定表に位置付けながら検討を進めています。また、得た情報は、様々な機会において、保護者や子どもたちに発信しています。保護者へはPTA総会を使って、地域団体から活動の様子や願いが伝えられます。児童へは、給食の時間に高学年児童が地域で取組んでいる活動の様子が紹介されたり、朝の集会で地域の剣道クラブの実演が発表されたりと、無理をして特別な時間や場を設けることなく、地域情報を発信する工夫をしています。



学級PTAで地区の行事へ参加

このように情報を発信する中で、学級PTAで地区の行事に参加しようという声も上がるようになり、公民館主催の「常盤ロードレース大会」に参加するクラスがありました。また、学校としては、地域で開催される10月の駅伝大会を体力向上のための取組の一環として位置付け、参加することを検討しています。

（北信教育事務所生涯学習課 指導主事 後藤 卓己）

講義 「学校支援ボランティアの意義と可能性」  
日本大学教授 佐藤 晴雄 さん

学校を中心としたまちづくりが進められてきた習志野市秋津。そこには、生き生きと暮らす子どもと大人の姿がありました。三鷹市のボランティアは、登録すると最初に、守秘義務等、必要な事柄を学びます。講義では、さまざまな課題を克服していった先進地の取組や、ボランティアによってもたらされる恩恵について、具体的に理解することができました。

〔5/31(木) 長野県生涯学習推進センター「学校支援ボランティア研修講座」(参加者160名)〕

学校は、もともと担っていたものを10とすると、+1+1というように、多くの課題を抱え、肥大化しています。ボランティアが活動してくれることで、それを元に戻すことができます。その分、先生が子どもに向ける時間が増えるのです。

図工の片づけをしようとする先生に、ボランティアが言いました。「先生、私たちに任せて。ほら、外で子どもたちが遊んでいますよ。」



ボランティアの学校支援で、学校・子ども・地域は必ずよくなります。うまくいっている学校では、そういう確信を持ち、しっかり説明して進めることができます。

(長野県生涯学習推進センター 専門主事 藤江 玲子)

## 信州型コミュニティスクールQ&A

Q1 本校では、これまでも学校支援ボランティアが盛んに行われてきました。今後、「信州型コミュニティスクール(信州型CS)」にするためには、具体的には何をすればいいのですか。

A1 信州型CSの基盤となるのは、学校支援ボランティアです。まずは、各校で学校支援ボランティアを充実させ、さらにそれを持続的な支援にしていくために組織化を進めていただきたいと思えます。その上で、「運営委員会」の設置を検討してください。

「運営委員会」は既存の会議を活用することもできます。以下に要件を整理しますので、既存の組織を活用する場合は、あと何を整えればいいのか確認しながら進めてください。

- 1 3つの機能(意見交換)を一体的に行う会議
  - (1) 学校支援についての意見交換  
学校からの支援要望にもとづいた、地域住民による学校支援活動について
  - (2) 学校運営についての意見交換  
めざす子どもの姿や、学校の重点目標や課題への取組について
  - (3) 学校関係者評価(以下①②のいずれか実施)
    - ①学校関係者評価の実施(一部でも可)
    - ②学校評価結果について説明を受け意見交換をする
- 2 年間複数回の開催
- 3 委員として、ボランティアの代表または、地域のコーディネーターの参加

以上の要件を充たした「運営委員会」が設置された学校を信州型CSとしています。

信州型CSの推進は、仕組みづくりを進めるものですが、目指すのはこの仕組みを有効に活用して、学校と地域が願いや課題を共有し、一体となって子どもたちを育てることにあります。運営委員会がその機能を発揮できるよう、熟議を取り入れるなど運用面での工夫も大切です。

### ■お問い合わせ先

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel026-235-7437 e-mail:bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 Tel0267-31-0252 南信教育事務所生涯学習課 Tel0265-76-6861

南信教育事務所飯田事務所 Tel0265-53-0460 中信教育事務所生涯学習課 Tel0263-40-1977

北信教育事務所生涯学習課 Tel026-234-9552 長野県生涯学習推進センター Tel0263-53-8822

※この資料は、下記URLよりダウンロードできますので、ご活用ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/cs.html>